



北陸学院大学

レデック
REDeC

地域教育開発センター

活動報告書 2024

地域教育開発センター「REDeC: Regional Education Development Center」とは、北陸学院大学が行っている学問分野（幼児児童教育、英語及び英語教育、心理学、社会学、食生活その他の学問分野）に関する研究の成果をもって地域社会に貢献することを目的とする組織です。

2024 年度 参加人数

公開講座 133 名 REDeC セミナー 10 講座 105 名

2024 年度 テーマ

しょうせんけいご

承先啓後

～過去に学んで未来を拓く～

連続公開講座～いのちの重さと輝き～

2024 年 6 月 15 日（土）

『人新世の複合危機と人類の未来』

講師 斎藤 幸平 氏（東京大学大学院総合文化研究科准教授）

2024 年度連続公開講座～いのちの重さと輝きは、講師に哲学者の斎藤幸平さんをお招きし「人新世の複合危機と人類の未来」と題してご講演いただきました。

100 名を超える参加者が一堂に会し、斎藤氏が考える思想、新しい未来社会について聴講しました。社会構造が変わっているにもかかわらず、社会のしくみがなかなか変わらない今日、これからの時代を生きるわたしたちが何を思い、どう行動するのかを考えさせられるひと時となりました。参加された方々からは、『今ある私が見ていた世界が、すこし違って見えるように感じた』『提示された選択肢しか見えないほど、視界が狭かったと感じた』といった感想が寄せられました。



©島本絵梨佳



コーディネーター：田中純一社会学科教授

『あったか地域の大家族～富山型デイサービスの 30 年～』

講師 惣万 佳代子 氏

（特定非営利活動法人デイサービスこのゆびとーまれ理事長）

冬の連続公開講座として、講師に惣万佳代子さんにご登壇いただき、「あったか地域の大家族～富山型デイサービスの 30 年～」の題でご講演いただきました。

「富山型デイサービス」が誕生して 31 年。「豊かな人間関係の中で、人は育ち、喜びも大きい」「制度が正しいのではなく、その人のニーズが正しい」制度の壁を乗り越え、目の前の一人に向き合うことを最前線から発信し続けている惣万さんのことば一つひとつが力強く、重みをもったものであると同時にやさしさがにじみ出るものでした。参加した学生から『福祉の捉え方が変わった』といった声が聞こえるなど、参加者にとって意義のある時間となりました。



コーディネーター：田中純一社会学科教授

キリスト教関連講座

2024 年 8 月 24 日（土）

キリスト教関連講座 REDeC セミナー「歴史とオルガンが奏でる未来～キリスト教としての承先啓後～」が開催されました。本学学長の矢澤励太教授、北陸学院ウィン館 山本悦子氏、北陸学院中高キリスト教音楽主事の春日朋子氏にご担当いただきました。

ウィン館で学院史料編纂室室長の山本悦子氏より、金沢女学校の創立者メリー・ヘッセル宣教師の人生と教育という使命への献身についてお話を伺いました。

その後、栄光館グロリアチャペルにて、春日朋子氏のオルガン演奏を聴きながら、参加者は学院・地域社会・日本と世界の歴史と未来に思いを巡らせました。

『ヘッセル先生の本当に命を懸けての使命感と生き様に感動しました』『パイプオルガンのステキな演奏をありがとうございました。バッハの曲が素敵でした!』といった声をいただきました。



社会連携講座 REDeC セミナー「障がいを持つ子の親のためのメンタルヘルス支援～研究と体験からお伝えたいこと～」と題して幼児教育学科 ポーター倫子教授が講演をしました。

子育て中の親は育児ストレスや不安を経験していると指摘されており、講師自身が経験した障がい児の子育てのエピソードなども交えながら、現在進行中の研究の一部データを紹介しました。

今回は、卒業生、在校生、障がい児保育の実践者や指導者、障がい児の親の方々が参加してくださいました。会場からは『自閉症児の保護者との関わり方を見直す良い機会となりました』『子どもを大切にするにはまず自分を守ることが大切という考え方に共感しました』『保育士は子どもに目が向きがちですが、保護者の心のケアも重要です』『来年から児童指導員として働く予定なので、今回の講座を参考に保護者と関わりたいと思いました』などの貴重な意見が寄せられました。



生涯学習講座 REDeC セミナー「美術学入門～九谷焼及び陶磁器の鑑賞方法～」が開催されました。幼児教育学科 崎浜聡准教授が担当しました。

今回の講座は入門編ということで、骨董や陶磁器にはじめて触れるという方もいらっしゃいました。講座では、古九谷の磁器が焼き物の技術としてどのような位置にあるのかを簡単に説明し、磁器の技術から古九谷の優れた部分に焦点をあて、古九谷の価値を評価しました。参加者からは『為になった』『本物か二セモノかわからない』『シリーズ化してください。次回も楽しみにしています』といったうれしいご感想をいただきました。



キャリアアップ講座

キャリアアップ講座として「管理栄養士国家試験対策講座」を開講しています。

管理栄養士国家試験合格を目指す方ならどなたでも受講いただけます。本学の卒業生なら受講料は無料となっております。（テキスト購入費等は別途必要です）

2025 年度春の管理栄養士国家試験合格にむけて、今年は 12 名の卒業生に受講いただきました。

それぞれの分野ごとに、出題傾向に沿って内容を解説し、さらに模擬問題の演習、解説や留意点の補足を行いました。12 名の受講者が熱心に取り組み、すべての日程を終えることができました。

受講された卒業生の希望が叶えられるよう、祈っています。

開講日

9 月 28 日（土）

10 月 5 日（土）

10 月 19 日（土）

10 月 26 日（土）

11 月 2 日（土）

11 月 16 日（土）



健康科学部（栄養学科）

2024 年 6 月 8 日（土）

「いざという時に備える震災食」

石川県栄養士会の高信雅子さんを講師にお招きし、非常時のための備蓄や、ポリ袋を使った調理法を学びました。

ごはん、おかゆ、ラタトゥイユ、切り干し大根のサラダ、さつまいもようかん、全てをポリ袋で調理、新聞紙で作った食器で試食をしました。先生から能登半島地震での食支援のお話もあり、参加者の方々は真剣に聞き入っていました。

『非常時の備えとして大変勉強になりました』『普段家庭で食べている食事が簡単にできると栄養面でも安心です』『この経験を知識としてではなく職場や地域の人達に伝えたいと思います』などの感想をいただきました。



コーディネーター：三田陽子栄養学科講師

2024 年 9 月 28 日（土）

「親子で楽しむおやつづくり」

健康科学部栄養学科教職員のサポートのもと、フルーツポンポン（ゼリー）、ロールサンドイッチ、梨のラッシーを親子一緒にゆっくり作っていただきました。作ったおやつは、混ぜる、すくう、巻く、包丁で切るなど、子どもたちが様々な調理動作を体験できるものでした。「上手になったね、名人だね」の声掛けに照れながらも満足そうなお子さん、苦手な食材をおいしく食べることができて笑顔を見せるお子さんの姿に、教職員も嬉しい限りでした。参加されたお子さんたちからは『たのしかった、おいしかった、またやりたい、とてもかんたんでわかりやすかったです』や保護者の方からも『美味しかったです、海苔とパンが意外とあってびっくりです、自宅でも作ってみようと思います』などの感想をいただき、タイトル通り親子で楽しんでいただけた講座となりました。



2024年5月24日（金）

「砂場遊びでどのような資質・能力が育成できるか」

本講座は、幼児教育学科 虫明淑子教授と初等中等教育学科 川真田早苗教授が講師を務めました。幼児教育で育成が求められる資質・能力が小学校教育にどのように連続し、発展するかについて考察し、参加者は持参した写真を提示しながら砂場遊びの事例や悩みを共有しました。その後、小学校6年生「理科」の授業事例を紹介して、幼児教育の成果がどのように小学校につながっているかを振り返り、課題や悩みの解決策に向けて協議しました。

5月下旬夕方に開催された本講座に参加された先生方は、自園の砂場遊びの魅力や保育上の悩みについて積極的に語り合っていました。参加者の感想には、『改めて基礎である幼児期の大切さを感じた』『日々の保育が小学校への学びにつながることを改めて感じた』『もっともっと講義を拝聴したかった』といった意見が多数寄せられました。



2024年6月22日（土）

「英語のオノマトペー日本語と比較してー」

本講座は、初等中等教育学科 宮浦国江教授が講師を務め、同学科 山本良一教授と開催されました。馴染み深い日本語のオノマトペと比較しながら英語のオノマトペをスヌーピーの漫画での実例とともに紹介し、それぞれの特徴を示し、用法と語彙化の観点からさらに探求しました。最後に、最近の研究ではオノマトペが言語進化や言語習得の解明に迫るカギとして注目を集めていることにも触れました。高校生の方や英語に長い間携わっている方も参加してくださり、改めてオノマトペの持つ魅力を感じました。参加した方からは『興味深かった』『いろいろな観点から見ることで面白かった』というお言葉を多くいただきました。皆さんと一緒に英語を楽しみ、また言語の奥深さにも触れることができた時間でした。



2024 年 5 月 25 日（土）

「ケース・スタディとビジネス」

本講座は、社会学科 平岩英治准教授が講師を務めました。

ケース・スタディとは、日本語では「事例研究」と呼ばれ、事例を分析してその背後にある法則や傾向を究明していく研究手法のことを指します。参加された方からは、『ケース・スタディはビジネスだけでなく教育においても使える方法であると感じた』『ケース・スタディにおいて抽出した内容をほかで使う場合どのように伝えたら良いのか、ケース・スタディで抽出した内容における因果律はどこで見えていくのか』など質問が活発になされ、時間がもっとあったらいいのにと名残惜しむ声も聞かれました。

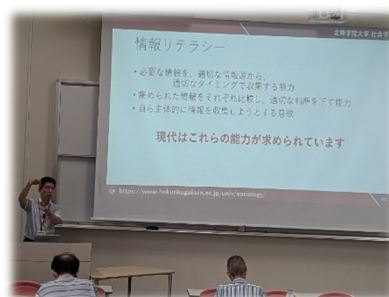


2024 年 7 月 20 日（土）

「コミュニケーション方法の変遷 ー世界が小さくなっていくー」

本講座は、社会学科 池村努教授が講師を務めました。

私たちが何気なく行っているコミュニケーションについて、声や身振り手振りだけを使っていた人類創成の頃から、情報通信機器に囲まれる現代まで、コミュニケーション・情報伝達方法の歴史を振り返り、それぞれの特徴や情報伝達機器の変遷を紹介しました。同時に現代に生きる私たちに直接かかわってくるコミュニケーション方法の変化と課題を考え、現代社会で必要とされる情報リテラシーについて学びました。



出張講座

本学教員が会場に出向き、一般の方向けに講義を行っている出張講座は、2024 年度は 12 団体からのお申し込みを受け、13 回、のべ 274 名の方が聴講しました。



◇地域教育開発センターには学生が率先して展開している事業があります◇

よりそいの花プロジェクト

よりそいの花プロジェクトは東日本大震災で被災された岩手県陸前高田市の支援をきっかけに2012年に発足しました。自然災害で被災された全国各地を訪れ、住民の方々と共に歩みながら災害復興や地域振興に向けた活動をしています。

「よりそいの花プロジェクト」では、震災や水害の被災地に寄り添い、2024年度は延べ130回以上、現地でボランティア活動を行ってきました。

家具の運び出しや床下の泥出し、泥だらけになった大切な写真の洗浄など、地道な作業を重ねながら、被災された方々の暮らしを少しでも支えたいという思いで活動しています。

また、ローズガーデンコンサートやお茶会などの交流イベントも開催し、心休まるひとときと、あたたかな対話の場を届けてきました。

これからも、復興の歩みに寄り添いながら、私たちにできることを考え、支援を続けてまいります。

皆さまのご支援・ご協力に、心より感謝申し上げます。



スイーツ研究所

北陸学院大学スイーツ研究所は地元食材を使用したオリジナルスイーツやアレルギー対応のスイーツなど、安心して美味しいスイーツの開発に取り組んでいます

ほうじ茶カヌレやブロッコリー肉まん等、地元の食材を活用した既存の商品に加え、新たに1種のプリンとゼリーを開発。校内販売を3回実施しました。プリンには打木赤皮甘栗南瓜を練り込んだ団子を添え、ゼリーには、ほうじ茶と抹茶を使用。食材の特徴を活かしながら、見た目、香り、食感からも涼やかさを感じられる商品に仕上げることができました。また、能登の復興支援を目的としたスイーツ作りに取り組みました。能登の特産品（能登塩、能登産栗南瓜、能登ブルーベリー、七尾市産中島菜）を使用し、優しい色合いと4つの異なる風味と食感を楽しめる「よつばのクローバークッキー」を開発。金沢市内での無料配布や大学祭での販売を行いました。



ブロッコリー肉まん



涼香（すずやか）ゼリー



ほうじ茶カヌレ



よつばのクローバークッキー



クリエイショングループ

北陸学院大学クリエイショングループは、行政や地域団体からの依頼を受けてイベントスタッフとして活動し、子ども向けの参加型ステージパフォーマンスを提供しています

今年度、クリエイショングループは行政からの依頼で、恒例の、はだしの王国・オレンジリボンキャンペーン・子育て支援メッセのほか、幼稚園、こども園、児童館への出張パフォーマンスなどの活動を充実して行うことができました。主催者からは毎年高評価を頂いて、学生もいろいろな経験を積むことができたようです。今年度末にはそれらに加えて金沢市からリサイクルに関する子ども向けの仕掛け紙芝居の製作依頼がありました。今回で3作目になるこの依頼に向けて現在、取り組んでいます。今後もプログラム製作の向こうに見える子どもたちの笑顔を想像しながら活動していきたいと思っています。



こねくと保育

一人一人が、自分の思いや興味関心と出会うことにより生まれる「知りたい・やりたい」を着実に叶えながら、そこで得た保育や人間に関する気づきと学びを発表し、共有していくことで互いに高め合っていくことを目的としています

団体名である「こねくと保育」には、活動を通してさまざまな人と関わり、繋がり合いながら自己を知り、学びを深めていきたいという願いが込められています。

2024 年度は、卒業生を招いて OG 会を開催したり、授業を通じて生まれた「おもちゃ」への興味をさらに深めるための研修会を企画したりと、学生が主体となって多様な活動を行ってきました。学内外での行事やさまざまな経験が、新たな「知りたい」「やりたい」へとつながり、まさに“connect”していく一年となりました。



活動を進めるにあたっては、毎回の話し合いで議事録を作成し、大まかな決定事項だけでなく、一人ひとりがどのような思いをもって発言したかといった、決定に至るプロセスも丁寧に記録しました。

また、実際の運営においては、外部の方や学内の教職員との調整も自分たちで行いました。団体の代表として交渉を行う役割であったため、資料を含む事前の準備と確認の重要性を改めて実感しました。この役割を通して、人とのご縁の貴重さを再認識する機会にもなりました。

「こねくと保育」の活動全体を通して、一人ひとりが自分の役割を把握し、責任を持って行動することの大切さや難しさ、また組織図に沿って段階的に物事を進めることの難しさを感じることができました。



2024 年度北陸学院大学公開講座・REDeC セミナーへ多くのご参加をいただき、誠にありがとうございました。

北陸学院大学
学術情報研究・社会連携センター
地域教育開発センター

〒920-1396
石川県金沢市三小牛町イ11番地
TEL:076-280-3856
E-Mail:reddec@hokurikugakuin.ac.jp